



佐土原ロータリークラブ週報



ロータリーを
祝おう

100年のあゆみ

2004-2005 年度 R I テーマ

会 長: 林 厚 雄	会 計: 柳 田 光 寛
副 会 長: 岩 切 正 司	会 報 委 員 長: 宮 原 建 樹
幹 事: 藤 堂 孝 一	

第 861 回 平成 1 6 年 1 1 月 2 4 日 (水)

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 食 事 の 時 間
3. ロータリーソング
「奉 仕 の 理 想」
4. 四つのテストの唱和
5. 会 長 の 時 間
6. 幹 事 報 告
7. 委 員 会 報 告
8. ゲ ス ト 卓 話
9. 点 鐘

第 860 回の記録 平成 1 6 年 1 1 月 1 7 日 (水)

☆会長の時間 会 長 林 厚 雄 君

今日は、ロータリーの歴史第 4 回目を話したいと思えます。

1897年 1 月 27 日ポールはシカゴで弁護士を開業することになりました。当時のシカゴは、万国博覧会での過剰な建設に加えて全国的な不況が重なり、社会倫理などどこ吹く風とばかり弱肉強食の見にくいありさまでした。そんな社会状態ですから、失業者が町に溢れ、不正、汚職、詐欺、放火、暴力が横行していて、全くの無法地帯と化していたそうです。

そんな時でしたので、最初の弁護士事務所は、町の雑居事務所の中に 3 人で組合を作って設けました。

しかし、一人の仲間が山で猛吹雪に遭い命を失い、もう一人は他の弁護士事務所に移ってしまいました。

その後、新しい弁護士と共同で「ハリス・アンド・ドッズ」という事務所を開設しました。ここでは父親と同じぐらいの年齢で特別に勝れた才能を持った弁護士と一緒にいたので、ポールはどんな事件をどう処理すればよいかなど多くの解決方法をこの人に学ぶことができました。1900 年、シカゴの景気は、アメリカ経済が回復し始めたことによって、すこしづつ立ち直ってきました。しかしポールの心の中は、荒涼とした社会の姿に失望し、孤独感にさいなまれていました。

そのような状態ですので、何か不安で、確実な理念を見出そうと住居を 3 0 回も移ったり、解決を求めようと色々な宗教や教会を訪ねまわっています。

これを見てもポールの悩みがどんなに深かったということが解ります。こんな心の苦悩下にあつて、ある日友達の弁護士と夕食後散歩をしているとその友達が彼の知人である商人達と親しく話している様子を見て、ポールはふと悟ることがありました。

この人たちは、医師、弁護士、鍛冶屋、食料雑貨店、金物屋、獣医を問わずいずれも自分の知識や技術、経験を生かして、他人のために尽くすことによって地域社会に貢献し、楽しく話し合っている。ポールは、政治や宗教を離れて、多業種から 1 人づつ集めたグループを作ってみたら、その人たちはおたがいの親睦も深まり、お互いが助け合う関係が生まれるに違いないと気付いたようでもあります。

またある晩、ポールは同業者の友達に連れられて、郊外の彼の家を訪れ夕食後近所を散歩している時、友達は店の前を通るごとに、店の主人と名を呼んで挨拶するのでした。これを見てポールはニューイングランドの村にいたときの事を思い出しました。

ニューイングランドの谷間の緑の原や、心優しい昔の友達を恋焦がれ、また、少年時代に山や丘を友達と歩き回った思い出が津波のように沸き起こってポールは心いっぱいになったそうです。その時浮かんだ考えは、この大きなシカゴで、さまざまな職業から一人づつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見を広く許しあえるような人を選び出して、一つの親睦関係をつくれぬもろだろうか、ということでした。こういう親睦関係ができれば、必ずお互い助け合うことになるはずで、そして、いよいよポールは、いろいろと熟慮を重ね、構想を練った晩にシカゴにロータリークラブの基礎を築くことになりました。

その日は 1905 年の 2 月 23 日の木曜日でありました。この日の夜は、空は晴れていましたが気温は身を切るような寒さで、川には厚い氷が張っていたと記されています。その当時の日本では、1904 年、日露戦争が勃発し、翌年の 1905 年には、日本海海戦で、日本の圧倒的な勝利で終結しています。

例会場: 石 崎 浜 荘 0985-73-1913 事務局: 〒880-0211 宮崎郡佐土原町大字下田島 20614-29

例会日: 毎週水曜日 12:30 ~ 13:30 T E L : 0985-73-7170 F A X : 0985-73-7170

